

平成26年度

シ ラ バ ス

桐生大学

別科 助産専攻

平成26年度 シラバス

科目名	助産学概論		担当者	鈴木由美、松原直樹	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	基礎領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日 時限	
授業の概要	助産とはなにか、その本質と意義、助産の歴史、助産の対象等の理解を基盤に、専門職としての助産師の業務、責務、倫理、役割への認識を深める。また助産師活動や助産師と教育・研究などについて教授する。母子保健や社会情勢と平行した助産師の活動及び教育、助産の歴史などを教授する。							
学習目的	助産の基本的理念、普遍的原理原則の理解をふまえて、助産師活動に対する現状と将来を展望できるように、母子保健の動向、助産や助産師活動の歴史、法的根拠、教育、倫理、研究活動の側面から理解する。							
到達目標	1. 助産の本質、意義について基本的理念、普遍的原理原則の視点で理解する。 2. 助産と助産師活動に対して国際的な視点も含めて、必要な助産師像について考える事ができ、将来展望を考えることができる。 3. 専門職助産師のあり方について学問的、法的、倫理的、国際的に理解する。 4. 母子保健の歴史と現状と助産師の役割を関連付けて理解する。 5. 日本の助産師教育の実情を知り、今後の展望について考えることができる。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	助産とは何か	助産、助産師の定義、助産師業務					鈴木由美	
第2回	リプロダクティブヘルス/ライツと女性の権利について	リプロダクティブヘルス/ライツと女性の健康にかかわる権利、ジェンダー、女性中心のケア、国際助産師連盟 (ICM) について					鈴木由美	
第3回	母子保健に関わる関係法規 (その1)	医療法、保助看法、医師法、母子保健法、児童福祉法、地域保健法、戸籍法、刑法、民法、労働法、就業規則					松原直樹	
第4回	助産師に関わる関係法規 (その2)	助産師業務、職制、身分に関わる法律、助産師の義務と責任とその訴訟事例など					松原直樹	
第5回	助産師と倫理	助産における倫理、出生前診断・代理母・不妊・多胎・人工妊娠中絶などにおける倫理、ICMにおける倫理綱領					鈴木由美	
第6回	日本における母子保健の動向と課題について	日本の母子保健の変遷					鈴木由美	
第7回	お産の歴史	お産の歴史、文化/古代から現代までの助産及び助産師の変遷					鈴木由美	
第8回	助産師教育について	助産師教育の変遷と実態及び国際的な比較について					鈴木由美	
教科書	日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト1 助産概論、我が国の母子保健、母子保健の主な統計 (母子保健事業団)							
参考書	国民衛生の動向、母子保健ハンドブック (母子保健事業財団)							
成績評価	単位認定 60点以上	出席・客観的試験 (80%)、レポート (20%) による。						
授業時間外の学習	女性の一生に関わる健康問題に興味をもち、積極的に関心をもち調べることが望ましい。日本社会における女性の生き方の変化、ジェンダーや女性の権利などに及び、女性を中心としたケアについて常に考える姿勢をもつよう時間外学習を積むこと。及び世界における女性の権利や健康問題について考えられる視座にたつこと。							
履修のポイント	助産とはなにかを知ること。分娩介助は助産技術の核ではありますが、助産の全てではありません。助産師活動について基本的理念、普遍的な原理原則を知り、助産師としての基本姿勢を学ぶところで終結します。							
オフィス・アワー	(鈴木) 火曜日～木曜日の16時半以降							

平成26年度 シラバス

科目名	人間の性と生殖		担当者	黒澤やよい	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	基礎領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日 時限	
授業の概要	いのちを育む機能を持つ女性のからだの構造と機能を理解し、健やかな発達と豊かな母性の発展をサポートするための知識を教授する。							
学習目的	人間の性と生殖について身体的、心理・社会的に理解を深め、助産師として必要な知識を習得する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性の性・生殖に関する解剖生理的側面について理解する。 2. 女性の健康を守るためのセルフケアと健康管理方法について学ぶ。 3. 女性を取り巻く性的健康を脅かす健康問題について学ぶ。 							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	女性の体の仕組み①		生殖器の解剖と性差、分娩との関連性					
第2回	女性の体の仕組み②		性周期とホルモン・妊娠とホルモン					
第3回	女性のフィジカルアセスメント		内診・膣鏡診・細胞診・性感染症検査 超音波検査・栄養価評価					
第4回	ライフサイクルとセクシュアリティ		思春期・成熟期 中高年期の女性の特徴とケア					
第5回	性と生殖をめぐる問題①		不妊・DV(ドメスティックバイオレンス) 月経障害					
第6回	性科学		性科学の概念とセクシュアリティ 性カウンセリング・妊娠と性行動					
第7回	性感染症とヘルスプロモーション		性感染症の疫学、診断とケア、妊娠・出産・育児と性感染症					
第8回	性と生殖をめぐる問題②		セクシュアルヘルスとリスク回避行動 性教育・家族計画と避妊法					
教科書	助産師基礎教育テキスト2 女性の健康とケア 日本看護協会出版会							
参考書	メディックメディア「病気が見える」(婦人科編)、助産学講座2 母子の基礎科学 医学書院							
成績評価	単位認定	60	点以上	出欠と記録物、及び筆記試験、グループワークにおける発言の積極性、講義における積極性等も含めて60%以上の水準に達していること。講義、GWの取り組みなどの姿勢も考慮する。				
授業時間外の学習	関心のあるテーマについては、Webで検索したり文献検索し、関連した情報を調べておくこと。							
履修のポイント	単位認定は60点以上							
オフィス・アワー	9～18時の在室時 kurosawa-ya@kiryu-u.ac.jp							

科目名	妊娠・分娩・産褥の生理		担当者	黒澤やよい	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	基礎領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日 時限	
授業の概要	妊娠・分娩・産褥の生理的経過を理解し、各時期の母子に起こる生理的変化に対応するための基盤となる知識を教授する。また正常経過を知る事により、正常から逸脱する可能性があること、逸脱していることが判断できるための知識を関連づけて学ぶ。							
学習目的	基礎看護教育での学びを基盤に、助産をするうえで必要な解剖、生理的な知識を深く理解する。正常経過をたどる妊産褥婦のケアに際して、根拠となる知識を活用してアセスメントできることを目的とする。また解剖生理的な知識のなかで、身体的な経過が正常か異常かの見極めができる知識の習得を目的とする。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 胎児の発育と妊娠の成立について学ぶ。 2. 妊娠の経過に伴う母体の変化を学ぶ。 3. 分娩の機序と母子に及ぼす影響を学ぶ。 4. 産褥の退行性変化と進行性変化を学ぶ 5. 各期に起こりやすい逸脱と観察の必要性を学ぶ。 							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	胎児の成長と発達、胎児付属物等について		初期発生と器官形成、胎児の発育と生理、胎児付属物の形態と機能、臨界期等					
第2回	妊娠の成立と維持		妊娠の成立、妊娠成立後の母体の変化、ホルモン動態、					
第3回	妊娠経過に応じた母体の変化		妊娠時期に応じた母体の生理的変化と正常な妊娠経過（精神的な変化等も含む）について					
第4回	分娩の生理（1）		分娩の概念・分娩の3要素					
第5回	分娩の生理（2）		分娩の経過と所要時間・分娩の機序①					
第6回	分娩の生理（3）		分娩の機序②、分娩が母体・胎児に及ぼす影響					
第7回	産褥期の生理（1）		産褥期の身体的変化、全身的变化					
第8回	産褥期の生理（2）		退行性変化、進行性変化及び分娩後の性周期の再開まで					
教科書	プリンシプル産婦人科学 武谷雄二他，メディックメディア「病気が見える」（産科編）							
参考書	助産学講座5, 6, 7, 8助産診断・技術学 I、II 妊娠期、分娩期・産褥期、医学書院、							
成績評価	単位認定60点以上	この分野の国家試験を意識した内容での筆記試験とする。						
授業時間外の学習	基礎看護学教育で学んだ母性看護学における知識の定着を図るよう復習を十分に行うこと。							
履修のポイント	知識を暗記するのではなく、診断・ケアの根拠となるように学ぶこと。							
オフィス・アワー	9～18時の在室時 kurosawa-ya@kiryu-u.ac.jp							

平成26年度 シラバス

科目名	ハイリスク妊娠・分娩・産褥		担当者	山口典利	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	基礎領域	必修	単位 (時間)	1単位 (15時間)	学年		曜日 時限	
授業の概要	母子保健環境は各方面の努力、進歩によって改善されてきた。乳児死亡率、早期新生児死亡率も世界のトップクラスにあり、低率である。しかし母体死亡率については更に努力を重ねる必要がある。出産は生理的なものとはいえ、妊娠中に起こりうる異常について学び、母子ともに安全な出産に臨めるよう十分な知識を習得しなければならない。以下の授業テーマに基づき講義をする。							
学習目的	この講義では周産期におけるハイリスク（妊娠、分娩、産褥の異常）について医学的な知識を学ぶことを目的とする。							
到達目標	1. 妊娠、分娩、産褥の異常及び主な合併症、疾患の原因、症状、診断、治療、予防対策について理解する。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	妊娠の異常 妊娠持続期間の異常		妊娠悪阻、子宮外妊娠、頸管妊娠 流産、早産、過期産、抗リン脂質抗体症候群、頸管無力症、絨毛膜羊膜炎					
第2回	妊娠高血圧症候群		PIH、子癇、HELLP、常位胎盤早期剥離					
第3回	胎児及び附属物の異常Ⅰ		前置胎盤、癒着胎盤、胞状奇胎、子宮内胎児死亡 子宮内胎児発育遅延、羊水過多、羊水過少					
第4回	胎児及び附属物の異常Ⅱ		多胎妊娠、PROM、切迫早産、血液型不適合妊娠 急性虫垂炎、婦人科疾患合併症					
第5回	合併症妊娠		呼吸器、循環器、血液、膠原病、甲状腺、精神科 糖代謝異常合併妊娠					
第6回	母子感染症		風疹、サイトメガロ、伝染性症紅斑、水痘、ATL 単純ヘルペス、B型肝炎、C型肝炎、HIV、梅毒 GBS、トキソプラズマ、クラミジア					
第7回	分娩の異常		分娩進行に関係する異常 微弱陣痛、過強陣痛、CPD、胎位異常 胎勢異常、進入の異常、肩甲難産 臍帯の異常、胎児機能不全、仰臥位低血圧症候群 分娩時裂傷（子宮破裂、膣会陰裂傷、血腫） 子宮内反症、弛緩出血、羊水塞栓、産科DIC					
第8回	産褥の異常		産褥熱、血栓症、産褥精神障害					
教科書	助産師基礎教育テキスト 7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、メディックメディア「病気が見える」（産科編）、プリンシプル産婦人科学 武谷雄二他							
参考書	助産学講座Ⅰ 助産診断・技術学Ⅱ、妊娠期、分娩期・産褥期、医学書院							
成績評価	単位認定	60	点以上	出席日数、試験をもって評価する。				
授業時間外の学習	授業内容を教科書で、十分に復習し知識の活用ができるようにすること							
履修のポイント	臨床現場に沿ったものを講義していきたい。重要な点は講義のなかで指摘するつもりである。							
オフィス・アワー								

平成26年度 シラバス

科目名	新生児・乳幼児の生理と病態		担当者	針谷 晃	学科	別科	開講期	前期
区分	基礎領域	必修	単位	1単位	学年		曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	<p>新生児期における助産師の役割は、生まれてきた新生児の一人一人にふさわしい医療を提供し、家庭での生活がスムーズに始まるよう協力することにあると思います。この授業では、新生児期に発症する疾患の病態生理について説明します。</p>							
学習目的	<p>この講義では、胎児、新生児期の生理、新生児期の疾患に関する理解や一次医療機関における適切な対応、育児に関する基本的知識の修得を行うとともに、疾病を有する児の家族への対応や新生児医療における倫理について学ぶことを目的としています。</p>							
到達目標	<p>新生児に関する基本的な知識を習得</p>							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	新生児学総論	新生児の定義、分類、新生児医療における用語発育発達とその評価						
第2回	新生児診断学 新生児の管理	新生児の診察法、検査について 各種モニター機器、主要な異常所見とその対応、新生児の養護と管理、家族への援助、母子相互作用、医療事故、新生児医療と医の倫理						
第3回	新生児の生理	体温調節と保温、栄養の基礎と臨床、水-電解質バランス						
第4回	新生児の呼吸器疾患	新生児の呼吸器疾患（呼吸窮迫症候群、黄疸、消化器疾患、胎便吸引症候群、新生児一過性多呼吸、新生児慢性肺疾患、肺炎、気胸・気縦隔、横隔膜ヘルニア）について、						
第5回	新生児蘇生法実習	蘇生法の実習						
第6回	新生児の循環器疾患 黄疸、消化器疾患	新生児期に発症する循環器疾患（チアノーゼ型先天性心疾患、新生児遷延性肺高血圧症）、黄疸をきたす疾患（特発性黄疸、溶血性疾患、遷延性黄疸、先天性胆道閉鎖症）、新生児期の消化器疾患						
第7回	血液疾患 免疫・感染症	多血症、新生児メレナとビタミンK欠乏性出血症について、新生児期の重要な感染症（TORCH症候群、敗血症、ウイルス感染症、B型肝炎母子感染予防）						
第8回	神経疾患 内分泌・代謝系疾患、	新生児期の神経疾患（新生児仮死、低酸素性虚血性脳症、頭蓋内出血、髄膜炎）について、先天代謝異常スクリーニング、低血糖、先天性副腎皮質過形成、クレチン症等について、						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	『新生児学入門 第4版』 仁志田博司著 医学書院、助産師基礎教育テキスト 7 日本看護協会							
参考書	「日本版救急蘇生ガイドライン2010に基づく 新生児蘇生法テキスト」改訂第2版 監修 田村正徳 メディカルビュー							
成績評価	単位認定 60 点以上 出席重視。レポート提出60点以上を合格とする							
授業時間外の学習	教科書の順番で講義を行うので、教科書の予習を事前に行うことを奨めます							
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成26年度 シラバス

科目名	母子の栄養科学		担当者	旭 久美子	学科	別科	開講期	前期
区分	基礎領域	必修	単位 (時間)	1単位 15時間	学年		曜日 時限	
授業の概要	<p>妊娠期、授乳期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、の各ライフステージについて生理的・精神的特徴を踏まえ、栄養状態の変化、栄養アセスメントの方法、栄養ケアのあり方について講述する。特に妊娠期・授乳期は生涯にわたる基礎作りのステージであるので、母子の栄養管理について学習する。また、栄養アセスメントに必要な食事摂取基準(2015年度版)についても講述する。</p>							
学習目的	<p>助産師として妊婦・授乳婦に指導する場面で、必要な母子の栄養についての基礎知識を学習する。</p>							
到達目標	<p>1. 母子のアセスメントを踏まえて、適切な栄養について理解する。 2. 食事摂取基準を理解する。</p>							
授業計画								
回	主 題	授 業 内 容						備考
第1回	母子の栄養 1	妊産婦の食事バランスガイド						
第2回	母子の栄養 2	妊婦の病態と栄養						
第3回	母子の栄養 3	妊婦の病態と栄養						
第4回	母子の栄養 4	産婦の病態と栄養						
第5回	母子の栄養 5	褥婦の病態と栄養						
第6回	母子の栄養 6	乳幼児の栄養・思春期の栄養						
第7回	食事摂取基準	食事摂取基準(2015年版) (1)						
第8回	食事摂取基準	食事摂取基準(2015年版) (2)						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	<p>応用栄養学(第3版) 澁本知恵・宮谷秀一編集(化学同人)</p>							
参考書	<p>食事摂取基準(2015年版)のプリントを配布する</p>							
成績評価	<p>単位認定 60 点以上 前期定期試験(定期試験70%, 提出物30%で評価する)</p>							
授業時間外の学習	<p>課題を行うこと。</p>							
履修のポイント	<p>復習と予習を行うこと</p>							
オフィス・アワー	<p>月・火・木曜日の昼休み及び5 限目</p>							

平成26年度 シラバス

科目名	母性父性の心理・社会学		担当者	篠原貴子	学科	別科	開講期	前期
区分	基礎領域	必修	単位	1単位	学年		曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	女性のライフサイクルにおける大きな節目となる妊娠前後の女性が抱える問題に関して、心理学的社会的側面から検討する。特に、母子関係のあり方を中心として、女性のメンタルヘルス、父親の役割と育児への関わり方、子どもの虐待、ドメスティックバイオレンス、カップル関係、育児支援に関する問題を取り上げると共に、近代以降の家族の歴史についても扱う。							
学習目的	母性・父性に関する知識を学び、妊娠婦として女性の心理的特徴・社会的役割についての理解を深め、助産師としての実践に応用できることを目的とする。							
到達目標	母性・父性に関する理解を深め、母子関係の形成に生じる心理学的理論や問題の背景に対する知識を学び、それらの問題に対する実態を認識、把握することで、問題解決に向けた支援のあり方を考える力を培う。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	イントロダクション	母性・父性の研究、女性のライフサイクル						
第2回	女性のメンタルヘルス	妊娠と出産をめぐるメンタルヘルス						
第3回	親子関係の問題Ⅰ	母子関係の理論						
第4回	親子関係の問題Ⅱ	母子関係における問題と父親の役割						
第5回	家族の問題	子どもの虐待、カップル関係						
第6回	家族と社会	近代以後の家族の歴史						
第7回	親子関係の援助	問題の発見と子育て支援						
第8回	まとめ	課題と展望						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	助産学講座4 基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学 医学書院							
参考書	授業時に随時紹介							
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験、授業中の態度、リアクションペーパーで総合評価を行う。							
授業時間外の学習								
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成26年度 シラバス

科目名	助産診断・技術学概論		担当者	鈴木 由美	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日	
							時限	
授業の概要	<p>助産診断・技術学は助産診断学、技術学の教科名として登場し、1997年に助産診断技術学となり、助産学を構成する重要な柱の一つである。ここでは助産診断学、技術学に大別し、助産師の専門職性と合わせて概説する。また妊娠分娩産褥は本来ウェルネス型診断を用いることでよりレベルの高い状態への変化、良好な状態の維持に有効で対症のQOLを向上させる。まず対象の強みに着目し、正常経過をたどれるかどうかの診断をし、逸脱しそうな場合は助産師のケア、指導で逸脱せずに経過できるかどうかを見極めると一連の思考過程を学ぶ。講義ではこうした診断の視点と展開の方法の枠組みについて教授し、各論において事例をもとに展開する方法を学ぶための橋渡しとする。助産技術では助産師が法的に独自で判断して行う技術とその到達度について触れ、助産師教育で求められる助産師の役割と機能についても教授する。経験で体得するのではなくEBMに基づいた技術でなければならないことなどを理解し、また産科特有の医療器材などの実際を知る。</p>							
学習目的	<p>妊娠、分娩、産褥の各時期における思考過程（助産過程）について理解する。また一連の助産過程に基づく助産技術についての理解する。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師の専門職性と診断との関係を理解する。 2. 助産診断が助産師の職能特有のものであること、看護診断、医学診断との境界域や共同問題について理解する。 3. 一連の助産過程（診断過程、実践過程）の展開の方法がわかる。 4. マタニティサイクルの助産診断で 5. 正常域との境界線が明確に 6. 各論では事例を 							
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	助産診断・技術学とは	法律に基づく助産師業務に基づく助産診断・技術学の概念						
第2回	助産診断の概要（その1）	助産診断とはなにか						
第3回	助産診断の概要（その2）	助産診断類型について (NANDAとマタニティサイクルの助産診断)						
第4回	ウェルネスVSイルネス	ウェルネスとイルネスの相違、ウェルネス型助産診断と実在型、リスク型、可能性型助産診断の表現の相違						
第5回	助産診断過程について	一連の助産過程及び診断における問題点など						
第6回	助産実践過程について	ケア計画立案と実践、評価について						
第7回	助産技術の概要と構成	助産診断に裏付けされた助産技術の概念、助産師に期待される実践能力、役割と機能						
第8回	助産技術の実際と助産師学生としての姿勢	助産技術で用いる物品の紹介、演習室の使用方法、技術学習に取り組む姿勢等				一部GW		
教科書	資料は別途準備します。							
参考書	助産学講座6、助産診断技術学Ⅱ（妊娠期）医学書院							
成績評価	単位認定 60 点以上 出席状況、定期試験で60%以上の得点で単位認定とする。							
授業時間外の学習	専門職性、診断に基づくケアであること、ケアの評価が更により良いケアに結びつくこと、またケアのための手段としての技術であることを学ぶこと。							
履修のポイント	対象者に則した助産過程を展開する意義及びケアを実践するための助産技術を理解し、それぞれの時期の対象者の助産過程が展開できるための基礎とする。助産診断と助産技術の関係性が強く、技術の裏付けには診断があることを理解する。課外での予習は必須で、1回毎の講義の復習、次回の予習をもって理解を深める。							
オフィス・アワー	火曜日～木曜日の16時半以降							

平成26年度 シラバス

科目名	助産診断学		担当者	鈴木由美、黒澤やよい 木村優子、藤枝亜由美	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	2 (60)	学年		曜日	時限
授業の概要	妊娠期、分娩期、産褥期/新生児期の助産過程について教授する。ここではまず一つの事例において情報を統合して診断するまでの思考過程を実例をあげて教授し、まずはグループで助産過程を展開し、個人でも助産過程が展開できるように教授する。正常を逸脱しそうな場合はケアや指導で解決できるようにケア計画がたち、正常を逸脱した場合は医師のと共同問題として看護計画を立案することを学ぶ。大切な観察の視点、情報の解釈と統合の方法、ケアの計画及び修正、ケアを実施した場合の評価、考察についても実例をあげて説明し、助産学実習において実践できるように教授する。異常の症例についてはハイリスクに関する講義で症状など観察のポイントを学習し、ここでは助産師の対応について学ぶ。							
学習目的	講義ではロールプレイ、実在のペーパーペイシエントの事例を通して診断、ケアプランが立案できる。ケアプランを実施した場合の実例をもとに、評価、考察を行い、プランの修正ができる。ハイリスクの場合は他の講義で学んだハイリスクの観察のための知識を活かし、看護者がすべきケアを学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠、分娩、産褥・新生児期の一連の助産過程を展開できる。 2. 正常を逸脱する可能性がある場合、必要な保健指導を企画・展開できる。 3. 正常を逸脱した場合でも共同問題としての看護過程を展開することができる。 							
授業計画								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	妊娠期の情報収集	5つの視点に基づく対象者の情報把握					鈴木	
第2回～9回	妊娠初期の助産過程 (初期) (中期) (後期) (末期：分娩直前)	妊娠各期における一連の助産過程の考え方 (開始時に講義) グループワーク及びまとめ (終了時に講義) ある妊婦の助産過程の展開の方法 (GW/ 末期は個人)					鈴木	
第10回	妊娠期の異常と対応	妊娠期に起こりやすい異常と助産師の対応について					鈴木	
第11回	分娩期の助産診断について	正常分娩の情報収集と分娩予測、経過診断					黒澤	
第12回		正常分娩の健康生活診断/事例紹介 (初産婦・経産婦)					黒澤	
第13回	分べん各期の助産診断とケア	入院時の診断とアセスメントとケア					黒澤	
第14回		分娩第1期の診断とアセスメント・ケア					黒澤	
第15回		分娩第2期の診断とアセスメント・ケア					黒澤	
第16回		分娩第3期の診断とアセスメント・ケア					黒澤	
第17回		分娩第4期の診断とアセスメント・ケア					黒澤	
第18回	境界域ケースの助産過程	前期破水、微弱陣痛、促進・誘発分娩					黒澤	
第19回	医療管理上の助産過程	帝王切開、無痛分娩、グリーンケア					黒澤	
第20回	正常逸脱の事例の助産診断 (共同問題とケア： 講義と討論)	分娩経過中の逸脱 (回旋異常、胎児胎盤機能不全)					鈴木	
第21回		分娩経過中の逸脱 (弛緩出血・頸管裂傷・IV度裂傷)					鈴木	
第22回		母体合併症 (妊娠高血圧症、妊娠糖尿病) 異常分娩 (多胎、IUGR、骨盤位) 等の診断とケア					鈴木	
第23回	産褥期の助産診断	産褥期の助産診断					木村	
第24回	産褥・新生児期の助産診断	産褥期・新生児期の助産診断					木村	
第25回	新生児期の助産診断	新生児期の助産診断 紙上事例の提示					木村	
第26回～第28回	母子を統合した助産診断	助産過程の展開 (産褥期) GW					木村	
第29回～30回	NICUにおける新生児のケア (1)～(2)	正常を逸脱した新生児のケアの実際を学ぶ					藤枝亜由美	
教科書	助産師基礎教育テキスト 4, 5, 6, 7 日本看護協会 プリンシプル産婦人科学 武谷雄二他 マタニティアセスメントガイド 真興交易、							
参考書	今日の助産、北川真理子、南江堂							
成績評価	単位認定 60点以上 国家試験出題基準も考慮した筆記試験による。							
授業時間外の学習	提示された課題にしたがって妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産診断過程を展開する。							
履修のポイント	助産学実習で必須となる思考過程であり、ケアに必要な判断力を養う科目である。実際の妊産婦の事例を用いてグループワークから次第に個人で助産過程を展開できるようにし、助産過程のポイントが分かるように講義を展開する。展開したものについて一定の水準まで到達できない場合は個人指導する場合がある。							
オフィス・アワー	月～金の16時半以降							

科目名	助産技術学		担当者	鈴木田美、黒澤やよい 木村優子、矢島英彦 他	学科	別科助産専攻	開講期
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	2 (60)	学年		曜日 時限
授業の概要	周産期の助産技術助産診断とケアに必要な技術をEBM、NBMの視点から演習を通して習得する。助産技術学は診断学と切り離すことができない分野であり、常に助産診断と並行した技術が用いられることを教授する。また緊急時、異常時においては、ハイリスク妊娠分娩産褥で学んだ知識を観察の視点とし、ここでは看護者がとるべき行動についても教授する。						
学習目的	妊娠期、分娩、産褥期、新生児期の助産技術の基本を学び、EBMを理解し、実践できる。						
到達目標	1. 妊娠期では妊婦の健康診査に必要な助産技術、分娩期では産婦の分娩介助を中心とした技術、産褥期、新生児期では産後の母体、新生児観察のために必要な助産技術を習得する。 2. それぞれのEBMを理解し、助産診断に基づいて実践できる。 3. 妊娠期では超音波断層撮影を体験する。						
授 業 計 画							
回	主 題		授 業 内 容				備考
第1回 (妊1)	妊婦の健康診査と観察・技術		健康診査に必要な観察・技術・NST (問診と妊婦健診の技術)				鈴木
第2回 (妊2)							
第3回 (妊3)			生活を整える技術(着帯・姿勢・動静) 骨盤位矯正法				
第4回 (妊4)							
第5回 (妊5)		妊娠期の超音波診断技術	妊娠期の超音波診断の実際について				矢島
第6回 (妊6)		妊娠期の超音波診断技術	妊娠期の超音波診断の実際について				矢島
第7回 (分7)		NST・CTGモニターについて	胎児心拍モニタリングの実際と判読方法				鈴木
第8回 (分8)		分娩期の診察技術(1)	産婦の観察について；外診、内診技法その他				黒澤
第9回 (分9)		分娩期の診察技術(2)					黒澤
第10回 (分10)		分娩経過とケア	一連の分娩経過と技術(講義・DVD)				黒澤
第11回 (分11)			分娩介助法(演習用DVD)、分娩環境整備と物品				黒澤
第12回 (分12)		分娩介助の実際	デモンストレーション(解説)				黒澤
第13回 (分13)			デモンストレーション(連続)				黒澤
第14回 (分14)			技術演習(グループ別)				黒澤
第15回 (分15)							黒澤
第16回 (分16)		フリースタイル分娩	分娩経過と体位(DVD、講義)				黒澤
第17回 (分17)			フリースタイル分娩の実際(演習)				太田記念病院スタッフ
第18回 (分18)		産道の損傷への対処とケア	会陰切開と会陰保護				黒澤
第19回 (分19)			分娩期の縫合技術(講義・演習)				黒澤
第20回 (分20)		分娩と産痛緩和	呼吸法とリラクゼーション、補助動作、マッサージ他				黒澤
第21回 (褥21)		産褥期の診断技術	乳房の観察と診断技術				木村
第22回 (褥22)			授乳技術と乳房ケア				木村
第23回 (褥23)		産褥期の援助技術	全身の回復と診断				木村
第24回 (褥24)			子宮復古の観察と対処				木村
第25回 (褥25)		新生児の診断援助技術 (1)～(2)	新生児の観察技術・計測				木村
第26回 (褥26)			沐浴・哺乳				木村
第27回 (褥27)		新生児期の援助技術	新生児の身体計測、沐浴、哺乳介助(演習)				木村
第28回 (褥28)							木村
第29回 (褥29)		産褥期の援助技術	子宮収縮測定、ラッチオン、ポジショニング、乳房マッサージ				木村
第30回 (褥30)							木村
教科書	日本看護協会出版局 助産師基礎教育テキスト 第4, 5, 6, 7巻 プリンシプル産婦人科学 武谷雄二他 正常分娩の助産術 進純郎他 医学書院						
参考書	助産師のためのフィジカルエグザミネーション、大石時子 医学書院						
成績評価	単位認定 60点以上 実技テスト(分娩介助)と筆記試験						
授業時間外の学習	演習前の事前学習 分娩介助テスト・助産実習前に各自で技術の練習を行う。グループ学習がメインになる。協力し合い、分娩だけでなく妊産婦すべてにかかわる技術を時間外でトレーニングすること。						
履修のポイント	助産学実習で用いる技術として必修項目である。演習時は白衣着用のこと。						
オフィス・アワー							

平成26年度 シラバス

科目名	保健指導技術概論		担当者	鈴木由美 木村優子	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日 時限	
授業の概要	健康問題に関連した保健指導、相談指導、学級活動の基本となるコミュニケーション、相談技法、教育技法等の概念、意義を教授し、集団指導、個人指導の企画をするために必要な基礎を教授する。また保健指導における助産師に期待される姿勢を考える。保健指導の時期別各論で保健指導の展開につなげられるように教授する。							
学習目的	助産師活動における個人指導、集団指導の概念を理解し、適切な方法での企画、コミュニケーション技法を習得する。							
到達目標	1. 保健指導の理論、目的、方法について理解する。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	保健指導とは何か	健康教育、保健行動、行動変容、動機付けについて					鈴木	
第2回	教育・相談、指導のコミュニケーション技術	保健指導における人間関係、様々な教育技法、コミュニケーション技術、礼節について、助産師の態度、姿勢、および個人の相談技術、カウンセリング、電話相談、家庭訪問等について					木村	
第3回	集団指導と個人指導	それぞれの特徴とメリット、デメリット					木村	
第4回	集団指導の展開について	集団指導のリーダーシップ、教育技法、場の設定について、5W1Hに基づく企画、目標の設定、展開の方法、及び評価方法について、企画書の書き方など					木村	
第5回	指導媒体について	指導媒体の作成について、見易さ、適切な挿絵、写真の使い方、表現について					鈴木	
第6回	個人指導の段階とプロセス	個人指導の段階、助産師と対象の人間関係構築のプロセス、助産過程に基づく個人指導の目標などについて					鈴木	
第7回	個人指導の方法について	個人指導の展開の方法、健康教育指導案の書き方：個人の特徴の表現方法、指導目標の立て方、修正の方法、評価のしかた					木村	
第8回	保健指導における言葉の重要性	女性のエンパワーメントを高める関わり、言葉の大切さ、言葉遣い、態度、助産師としての姿勢					鈴木	
教科書	講義資料は準備します。							
参考書	マタニティサイクルの実践保健指導（妊娠期）鈴木由美、マタニティサイクルの実践保健指導（産褥期）鈴木由美、丸善プラネット出版、参加型マタニティクラスBOOK 戸田律子 医学書院							
成績評価	単位認定 60 点以上	出席状況、グループワークでの積極性、協調性、基礎理論の習得状況を試験、レポートなどから評価する。						
授業時間外の学習	グループワーク実施前後に各自の考えをまとめる。課題レポート。保健指導における看護者のありかたについて関係性などにも関心をもつ。グループ学習のデータシェアにとどまらず、独自に保健指導の展開ができるように個性の考慮などについて、また個人の特徴の把握などについても考える。							
履修のポイント	保健指導の指導案立案以前に企画をするところが非常に大切になる。特に集団指導の展開においてはこのことが理解されていないと指導計画は成功しない。							
オフィス・アワー	火曜日～木曜日							

科目名	保健指導技術		担当者	鈴木由美、黒澤やよい 木村優子	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	2 (60)	学年		曜日 時限	
授業の概要	正常な妊娠～出産、育児および女性の性と生殖はウェルネス診断が基本である。従ってウェルネス志向の助産過程にもとづき、保健指導によって異常に傾くことを回避し、よりよい状態または良い状態を維持するための保健指導の実践を学ぶ。個人指導においては助産診断に基づく保健指導の立案の方法、及び集団指導の企画、運営、展開の演習を行う。順序として最初に集団指導で展開するための方法を学び、次に助産過程事例に基づく個別性を考慮する方法について学ぶ。							
学習目的	助産師として必要な個人・集団指導の企画・展開方法を習得する。また対象者に応じて保健指導技術の方法を選択し、効果的に展開することができる。							
到達目標	1. 保健指導の企画、展開の方法を学び、対象者に応じた指導が実施できる。 2. 思春期、更年期等の女性の健康講座などを企画する方法を学ぶ。 3. 妊娠期、産褥期・新生児期の保健指導案を立案することができる。 4. 妊娠期・産褥期・新生児期の保健指導案に基づき							
授業計画								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	初診時の問診	初診時における問診					鈴木	
第2回	妊婦と同じ目線になる体験	情報収集の方法とスーパーマーケットツーリズム					鈴木	
第3回							鈴木	
第4回	妊娠中期における保健指導	妊娠中期の保健指導の内容 (出産育児準備、体重管理、乳房ケア、パースプラン)					鈴木	
第5回							鈴木	
第6回	妊娠中期～後期における保健指導	妊娠中期～後期の保健指導の内容 (貧血予防、早産予防、日常生活の動静)					鈴木	
第7回							鈴木	
第8回	妊娠後期における保健指導	妊娠後期の保健指導の内容 (産痛緩和法、腹部増大に則した日常生活の工夫、パースプランの確認)					鈴木	
第9回							鈴木	
第10回	妊娠末期(分娩直前)における保健指導	妊娠末期の保健指導 (分娩の近づいた兆候、入院の時期、産痛緩和の確認、家族の調整 予定日超過への対処)					鈴木	
第11回	妊娠期における集団指導の展開(模擬マタニティクラス) 妊娠期の保健指導まとめ	模擬 出産準備教育(両親学級/母親学級) デモンストレーションとまとめ					別科教員	
第12回								
第13回								
第14回								
第15回	産褥・新生児期における保健指導	分娩2時間後の居室指導					木村	
第16回		授乳指導・調乳指導					木村	
第17回		沐浴指導						
第18回		退院指導・受胎調節指導						
第19回		産褥体操・1ヶ月健診時の指導						
第20回		育児期の保健指導の方法と展開(GW)						
第21回								
第22回		母乳外来での保健指導					太田記念病院 スタッフ	
第23回							育児期の保健指導の方法と展開(発表)	
第24回								
第25回								
第26回								
第27回	ライフサイクルにおける保健指導～思春期～	思春期における保健指導、ピアカウンセリング、集団指導 講義・GW					黒澤	
第28回								
第29回	ライフサイクルにおける保健指導～成熟期・更年期～	成熟期・更年期における保健指導カウンセリング 講義・GW					黒澤	
第30回								
教科書	日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 妊娠期、分娩期、産褥期 2, 4, 5, 6, 7							
参考書	マタニティサイクルの実践保健指導(妊娠期) 鈴木由美、マタニティサイクルの実践保健指導(産褥期) 鈴木由美、丸善プラネット出版、参加型マタニティクラスBOOK 戸田律子 医学書院							
成績評価	単位認定	60点以上	筆記試験及び講義、グループワークにおける積極性等を考慮する。					
授業時間外の学習	指導案作りに活かせる資料を集める。妊娠・分娩・産褥各期に使用する保健指導案を各自作成する。グループを離れたらデータのシェアにとどまらず、単独学習の場合はオリジナリティのある指導案を作成する。							
履修のポイント	助産学実習における個人指導、及び3月に集団指導を実践するための基礎となる内容である。							
オフィス・アワー								

平成26年度 シラバス

科目名	地域母子保健		担当者	高橋マツ子、笠原佳代	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日	
							時限	
授業の概要	地域における助産師の活動を展開するために、国、都道府県、市町村における助産師の母子保健活動の歴史的な理解、また母子保健の動向等の理解を基本的基盤として、地域母子保健活動の目的、しくみ、展開プロセス、関係機関・職種との連携・共同、個別支援、グループ・地域組織活動の育成支援等、具体的な事例を通して学びます。(オムニバス形式)							
学習目的	助産師として地域の母子保健を推進するための基礎的知識を学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の概念を理解し、地域で展開する母子保健活動の意義を理解する。 2. 日本における母子保健の歴史的変遷の中で、母子保健をめぐる法律、制度、施策について社会の動きとあわせて理解する。 3. 地域の特性に合わせた母子保健活動を展開するために、地域の特性やニーズを把握するためのアセスメント視点について理解する。 4. 地域で展開されている母子保健活動の実際について、事例を通して理解する 5. 地域で生活している子ども 							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	地域母子保健活動の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域とは何か 2) 地域で生活する子どもと親をめぐる現状 3) プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション 					高橋マツ子	
第2回	地域における母子保健活動のしくみ	<ol style="list-style-type: none"> 1) 母子保健の歴史的変遷 2) 母子保健施策の体系 3) 母子保健活動を展開する場と人材 					高橋マツ子	
第3回	地域における母子保健活動の展開Ⅰ	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域の特性と母子保健関連 2) 地域特性のアセスメントとニーズの把握 					高橋マツ子	
第4回	地域における母子保健活動の展開Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域で生活する子どもと親を支援する法律・制度・施策 2) 関係機関・職種との連携・協働 					高橋マツ子	
第5回	地域における母子保健活動の実際Ⅰ	<ol style="list-style-type: none"> 1) 保健所における母子関連業務 2) 市町村における母子関連業務 3) あなたの町の母子保健活動(レポート課題) 					笠原佳代 (みどり市)	
第6回	助産師による地域母子保健活動の実際Ⅰ	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域構成よりみた産褥期母子ケアにかかわる潜在助産師調査と活動計画の策定と実際 					笠原佳代 (みどり市)	
第7回	地域における母子保健活動の実際Ⅱ～グループ支援	<ol style="list-style-type: none"> 1) グループ・地域組織活動 2) 子育て支援システムの構築 					高橋マツ子	
第8回	これからの地域における助産師活動	小グループワークと全体討論					高橋マツ子	
教科書	教科書未定(シラバスは飯島先生のシラバスのまま)							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上出席・客観的試験(80%)、レポート(20%)による。							
授業時間外の学習								
履修のポイント								
オフィス・アワー	5限は相談にも応じ、一緒に考えられるようお待ちしております。							

平成26年度 シラバス

科目名	助産管理		担当者	鈴木由美ほか	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	2 (30)	学年		曜日	
授業の概要	助産業務・管理及び、病産院・助産所の運営の基本的理解と助産業務の評価を行い、調整できるための基礎を学ぶ。その上で具体的手法としての管理のプロセスと、産科を取り巻く状況について学ぶ。助産管理の実践的事項として、病院や助産所の管理の実際、地域における母子保健活動を中心にして広がる幅広い活動や、困難な活動、国際化に伴う活動、危機対応を通して助産管理の特徴、法的責任、職業的倫理性を学ぶ。(オムニバス形式)							
学習目的	助産師として業務を遂行していく上で必要な基本的管理の原則、理念、法的責務、職業倫理の理解に基づき実際の病産院、外来、助産所での業務の展開について運営・評価・調整の基礎について理解できる。また、その時代が助産師に期待する困難な課題を含む役割についても認識できる。							
到達目標	1. 助産業務。管理の基本について、その特徴、法的責任、職業倫理を含めて説明できる。 2. 助産管理プロセスについて理解できる。 3. 産科病棟・外来、助産所の管理運営とその特徴が説明できる。 4. 現代社会が助産師に期待する様々な問題を含む役割期待を認識し、現状と将来に向けた対応を考えることができる。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	助産管理の基本概念		助産師の業務範囲、助産管理の定義、組織化、特性 医療経済				鈴木	
第2回	助産ケアの質と安全の保障		出産の安全性と快適性のための質の保障と評価、助産師の自己点検、自己評価				鈴木	
第3回	日本と海外における周産期医療システム		日本、アメリカ、イギリス、オランダ、韓国の助産師教育及び医療制度、周産期医療システムについてのグループワーク テキストp28-87				鈴木	
第4回							鈴木	
第5回							鈴木	
第6回	助産業務管理の過程について		助産管理と助産業務管理、業務の査定、目標管理の実践プロセス、業務計画の策定、評価、目標設定				本間	
第7回	助産業務管理の方法		組織管理(ギア念、意義、目的、構造、看護部、人事管理)書類管理、財務管理、業務の質について				本間	
第8回	ウィメンズヘルス		助産師活動の拡大、周産期以外の助産師活動				鈴木	
第9回	助産所における業務管理の実際(1)～(2)		助産所の定義、管理者と義務、ハートシステム、ソフトシステムについて、助産管理の基本、安全の確保、医療との連携助産所の管理運営の実際について(経営、運営、リスクマネジメント、医療との連携等)及びアメニティについて				山本助産院 伊藤充代	
第10回								
第11回	周産期助産管理システム(その1)		NICUにおける管理システム、母体搬送システム、オープンシステム				榊田恵津子	
第12回	周産期助産管理システム(その2)		周産期の医療事故とリスクマネジメント(周産期医療事故、助産業務におけるリスクマネジメント)				榊田恵津子	
第13回	災害と助産師		1. 災害とは 2. 災害時における看護 3. 災害時母子ケアの実際 4. 被災地における看護職の健康管理 5. 災害後の心的反応に対するケア 6. 母子の災害援助のための教育と訓練 7. ボランティア活動への参加				太田記念病院	
第14回	産科棟における助産管理		人員配置、看護体制、労働条件、就業規則、勤務計画、アメニティについて、クリティカルパスについて				榊田恵津子	
第15回	外来の助産管理		産科外来、助産外来、母乳外来、専門外来と助産業務管理				榊田恵津子	
教科書	日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト3 周産期における医療の質と安全、講師によっては自作資料							
参考書	日本助産師会 助産業務ガイドライン (HPからダウンロードしたもの/助産診断学、技術学でも使用)							
成績評価	単位認定 筆記試験60点以上出席、レポート(%)による。							
授業時間外の学習	様々な施設の管理体制に関心をもつこと/及び助産師の責任の重さを法的にも認識し、他職種との連携などにも関心を高めること							
履修のポイント	自律した助産師活動の要として位置づけられ、専門的助産技術の展開とは表裏一体をなしている点を理解できる。							
オフィス・アワー	鈴木:基本的に他の講義等がない時は応じられます。							

平成26年度 シラバス

科目名	助産学実習		担当者	鈴木由美、黒澤やよい 木村優子	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	実践領域	必修	単位 (時間)	11 (495)		学年	曜日	
							時限	
授業の概要	<p>産科棟実習においては正常が予測される妊産褥婦及び新生児を受けもち、一連の助産過程を通して援助を展開し、評価、考察を行い次のケアへとつなげる。特に分娩期においては10例の分娩介助を行い、それぞれの分娩、産褥、新生児などの助産過程が展開できることを目標とする。またそのうち1例は妊娠中期以降、可能な限り長期に受け持ち、産婦に合わせて分娩期に寄り添い、分娩介助後は退院迄及び1ヶ月健診までの母児の健康診査を行い、助産過程を展開する。</p> <p>NICUにおいては低出生体重児他何らかの正常逸脱をみる新生児を受け持ち、母子分離された状態からの母子関係構築の援助を行い、ケアの実際を学ぶ。また地域母子保健では家庭訪問や助産施設で実施している母子訪問などに参加し、地域母子保健の実際を学ぶ。一方で地域の妊婦とその家族を対象に集団指導を1クラス担当して実施する。</p> <p style="text-align: right;">*助産管理、助産業務及び助産所の運営の基本的理解と 助産業務の評価を行い、管理、調整の実際を学ぶ</p>							
授業時間外の学習	<p>実習時間外、休日、夜間などにオンコールがあり、時間外でも可能な限り学習準備にあてること、および健康管理に留意すること</p>							
成績評価	<p>助産過程、分娩介助評価表、保健指導技術、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。単位認定60点以上</p>							

平成26年度 シラバス

科目名	助産研究		担当者	鈴木由美 黒澤やよい 木村優子	学科	別科助産専攻	開講期	前期～ 後期
区分	総合領域	必修	単位 (時間)	1 (30)	学年		曜日 時限	
授業の概要	助産の視点から研究の意義を理解し、研究の一連の過程を体得する。この科目は通年であり、前期は講義から開始し研究計画を立案し対象者を設定し、模擬研究を実施する。そのさい学生同士で研究上の倫理に審査することを通して、研究に於ける倫理を検討する。また模擬研究では質的研究と量的研究の双方を体験し、データ収集、分析、考察、結果の順で体験する。助産学に貢献できる分野の研究（正常領域の妊産褥婦、母性看護、助産学、ウィメンズヘルス等）を行う。入学当初から助産学に貢献できる研究的視野をもって受講する姿勢が必要である。またケーススタディについても触れ、自分が実習で体験した事例をもとに、一連の助産過程に即してレポートを書き、抄録作成や発表を体得する。							
学習目的	助産学に貢献できる課題を見出し、倫理的に配慮しながら研究の一連の過程を体得する。ケース・スタディを通じて発表、抄録の作成も体験する。							
到達目標	1. 助産学に関連した研究の目的、意義がわかる。 2. 助産学における研究のテーマが設定できる。 3. テーマに沿った文献の検索ができる。 4. テーマに沿った目的が設定できる。 5. 適切な方法と対象選択の企画が正しい手続きを含めて実施できる。 6. 十分な倫理的対応ができる。 7. 方法に基づいたデータ収集ができる。 8. 正しい手法でデータ分析を行い結果を抽出できる。 9. 結果に基づいて考察し、論文が作成できる。 10. ケーススタディの発表ができる。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	助産研究の概要	助産師と研究について					鈴木由美	
第2回	研究のプロセス	研究テーマの検討 助産学の研究テーマについて					鈴木由美	
第3回	文献検索	文献検索の方法					黒澤やよい	
第4回	倫理的配慮について	研究者としての倫理的配慮について					黒澤やよい	
第5回	研究計画書について	グループで研究計画書を書く (GW)					黒澤やよい	
第6回	学生倫理委員会	研究計画書に対するグループ同士の倫理審査 (GW)					鈴木由美	
第7回	データ処理について (1)	量的研究の単純集計集計について (主にExcel)					石井広二	
第8回	データ処理について (2)	量的研究の検定について (主にExcel)					石井広二	
第9回	ラベルワークについて (1)	事例を用いて質的研究のラベルワーク (GW)					鈴木由美	
第10回	ラベルワークについて (2)						鈴木由美	
第11回	ケーススタディ	ケーススタディについて (意義・書式)					木村優子	
第12回	ケーススタディ発表	実習で関わった事例を通して学んだこととそのまとめ					鈴木、黒澤、木村	
第13回								
第14回								
第15回								
教科書	「臨床看護研究サクセスマニュアル」竹内登美子、(株)アンファミエ 助産師基礎教育テキストI 助産概論							
参考書	わかりやすいケーススタディの進め方、日本看護協会出版会							
成績評価	単位認定	60点以上	研究計画、文献検索、データ収集などは模擬研究で行いケーススタディは1月下旬 締切で評価とし、発表は1月下旬～2月上旬。					
授業時間 外の学習	実習で関わった事例についてケーススタディをまとめる。研究心をもって助産のEMBについて考えること。また、研究心をもつために様々な助産学のテーマに興味をもつこと。							
履修の ポイント	助産学に貢献できるテーマの設定、目的、方法、倫理的対応、研究計画書、計画書に基づいた実施、 ケーススタディのまとめ方の習得							
オフィス ・アワー	前期、後期共に火～木曜日の5限を予定しておきます。							

平成26年度 シラバス

科目名	不妊とケア		担当者	黒澤やよい 荒木康久 岡崎友香	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	総合領域	必修	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日 時限	
授業の概要	晩婚化・少子化などの社会的事情により不妊治療への関心が高まる中で、不妊カップルの現況を理解し、個々の対応に求められる助産師の役割を学ぶ。							
学習目的	不妊症のカップルを取り巻く背景と不妊治療の現状を理解し、看護の方法を学ぶ。							
到達目標	1. 不妊カップルを取り巻く社会的状況を知る。 2. 不妊治療の実際を知る。 3. 女性のライフサイクル（特に不妊）に沿った看護ができる。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	不妊治療をめぐる諸事情 ①		不妊症とは、不妊症の頻度と原因、不妊治療の方法				黒澤	
第2回	不妊治療をめぐる諸事情 ②		不妊治療に伴う身体的影響、経済的背景				黒澤	
第3回	不妊と生命倫理		子どもを生む選択・子どもを育てる選択				黒澤	
第4回	不妊症の検査と治療		不妊症診断のための各種検査と治療				荒木	
第5回	不妊症の治療		生殖補助医療の実際				荒木	
第6回	不妊症患者の背景		不妊患者の心理・社会的背景について				岡崎	
第7回	不妊症の看護（1）		受診前、初回受診時、検査時、治療時、治療終了時の看護				岡崎	
第8回	不妊症の看護（2）		不妊治療後の妊産褥婦の看護				岡崎	
教科書	助産師基礎教育テキスト 2 女性の健康とケア・7 ハイリスク妊産褥婦と新生児 日本看護協会							
参考書	不妊治療ガイドンス 医学書院 助産学講座2 母子の基礎科学 医学書院							
成績評価	単位認定	60	点以上	出欠と記録物、及び筆記試験、グループワークにおける発言の積極性、講義における積極性等も含めて60%以上の水準に達していること。講義、GWの取り組みなどの姿勢も考慮する。				
授業時間外の学習	関心のあるテーマについては、Webで検索し足り、文献を検索し関連した情報を調べておくこと。							
履修のポイント								
オフィス・アワー	9～18時の在室時。kurosawa-ya@kiryu-u.ac.jp							

平成26年度 シラバス

科目名	国際助産師論		担当者	鈴木麻矢 浅村里沙	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	総合領域	選択	単位 (時間)	1 (15)	学年		曜日 時限	
授業の概要	途上国の母子保健に関する問題と解決のための国際協力について教授する							
学習目的	途上国がかかえる母子保健に関する問題とその原因を理解し、解決を目指す国際協力と助産師が果たす役割を考える							
到達目標	1. 世界の健康問題を理解する 2. 途上国の小児保健の現状を知る 3. 途上国のリプロダクティブヘルス/ライツを妨げる要因を理解する 4. 母子保健向上のための国際協力と助産師の活動について知る							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	世界の保健医療問題		世界各国がどのような保健医療上の問題を抱えているか知り、助産師がどのような役割を果たすべきか考える					
第2回	世界の母子保健問題		ミレニアム開発目標 (MDGs) に掲げられた乳幼児死亡率の減少、妊産婦の健康の改善の達成を必要とする途上国の現状を学ぶ					
第3回	国際保健医療協力の概要		母子保健問題を解決するために行われている国際協力の概要を知る					
第4回	リプロダクティブヘルス/ライツと国際協力		1994年のカイロ会議以来注目されているリプロダクティブヘルス/ライツについて学び、途上国でどのようにこれを保障するか考える					
第5回	母子手帳に関する国際協力		妊産婦死亡や乳幼児死亡を減少させるために行われている母子健康手帳に関する国際協力について学ぶ。					
第6回	伝統的産婆と助産師		多くの途上国で出産に大きな役割を果たしている伝統的産婆 (TBA) について知り、助産師との違いについて考える					
第7回	性教育		人口問題、性感染症などの対策として思春期の教育が重要であり、各国で行われている活動を知る					
第8回	国際助産協力の実際		世界の人々に健康をもたらすための方策として提案されたプライマリ・ヘルスケアについて学び、地域保健活動の在り方考える					
教科書								
参考書	国際看護学入門 (国際看護研究会編、医学書院)、Where there is no doctor (David Werner, Hesperian Foundatin)							
成績評価	単位認定	60	点以上	レポートで100%評価				
授業時間外の学習								
履修のポイント	母子保健は途上国の健康問題の主要な部分を占めており、助産師の視点から問題を考えること							
オフィス・アワー								

平成26年度 シラバス

科目名	母子保健政策論		担当者	高橋マツ子、杉山友江	学科	別科助産専攻	開講期	前期
区分	総合領域	選択	単位	1単位	学年		曜日	
			(時間)	(15時間)			時限	
授業の概要	講師が一方的に授業をする形式ではなく、学生の積極的な参加や質問を歓迎します。最終の評価はレポートになりますので、問題意識を持って出席してください。専門職助産師としての職業人生を考える上での基盤づくりにつながる授業を目指します。							
学習目的	助産師が専門職業人として法律や行政の施策の中でどのように位置づけられているかを知り、母子保健施策の変遷、施策の転換等で助産師がどのような歴史を歩んできたのかを知り、現在の急激な少子高齢化の進展の中で助産師として求められる役割を認識し、将来の助産師をどのように発展させていくかを考える、							
到達目標	1. 政治や行政のあり方を学ぶ 2. 保助看法における助産師の定義を学ぶ 3. 母子保健施策の流れと助産師の歴史を学ぶ 4. 現在の母子保健や家族福祉等に関連する問題点や課題や解決策を考える 5. 諸外国の助産師活動を学ぶ 6. 将来の助産師の発展のあり方を考える							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	行政の仕組み		行政、政治、司法などに関する理解を深める					
第2回	行政の実際		最近の行政の流れや助産師に関連するトピックス等の紹介					
第3回	助産師を規定する法律等		保助看法の定義や、助産師活動に関連する法律等の紹介					
第4回	母子保健の変遷と助産師の歴史		戦前から戦後の母子保健の変遷や、それに関連する助産師の歴史					
第5回	諸外国の助産師活動		先進国の助産師活動を知る、ニュージーランド、カナダ、アメリカ等					
第6回	母子保健等に関連する問題点や課題		グループ学習					
第7回	助産師職の発展のあり方		グループ学習					
第8回	自主学習		レポート作成準備のための個別質問等の時間とする					
第9回								
教科書								
参考書								
成績評価	単位認定	60	点以上	レポート提出とし、再試験は行わない。				
授業時間外の学習								
履修のポイント								
オフィス・アワー								